# 業務定着へ向けて
## ―新人ＭＳＷの取組み―

葛西しほり[1),2)]，金澤　俊江[1),2)]，中込　玲子[3)]，遠藤　裕明[1),2)]，野田　勝之[1),2)]
青木　　伸[2)]，関谷　千尋[4)]，杉山　國夫[3)]，秦　　温信[2)]

札幌社会保険総合病院　医事課[1)]，地域医療部[2)]，庶務課[3)]，内科[4)]

多様化する現在の医療現場において医療ソーシャルワーカー（以下ＭＳＷとする）は他の医療専門職種と連携し、患者や家族の心理社会的問題の解決や地域社会でのサービスネットワークの構築など独自の機能を期待されている。新人ＭＳＷとして採用された平成9年から2年間の業務確立へ向けての取組みと、ＭＳＷが果たしてきた役割、さらには検討結果から明確になった今後の課題について提起したい。

キーワード：ＭＳＷ、業務確立、連携

### はじめに

新人ＭＳＷとして採用された平成９年からその後２年間の業務を振り返る事により、ＭＳＷとして果たしてきた役割と今後の課題が明確となったため、報告する。

### 方　法

平成９年４月１日から平成11年３月31日までの新規取扱い患者数は292件であったが、これらの援助状況などを分析し問題点、課題等について検討した。

### 結　果

（１）援助内容

292件を援助内容別に分類すると受診勧告や調整などの「療養生活援助」が26件、身障者福祉法や生活保護法等の「各種社会資源の活用」が最も多く202件と半数を占め、転院、入所先の調整等の「退院援助」が33件、医療費の支払い方法等の「経済的援助」が40件、各種病院、施設、行政等との「関係機関連携」が53件、親子関係の修復を目指した関り等の「家族関係調整」が２件、未婚者の出産支援等の「社会生活問題」が14件、その他27件となっている。

（２）依頼紹介者の内訳

次に292件を依頼紹介者別に分類すると「本人」57件、「家族」41件、「看護婦」103件、「主治医」31件、「関係機関」51件「院内他部門」９件であった。

（３）新規取扱件数の推移

新規件数を年度別に見ると、平成９年度はわずか101件であったのに対し、平成10年度が191件とほぼ倍増していることがわかる。当院就職後１年間は医

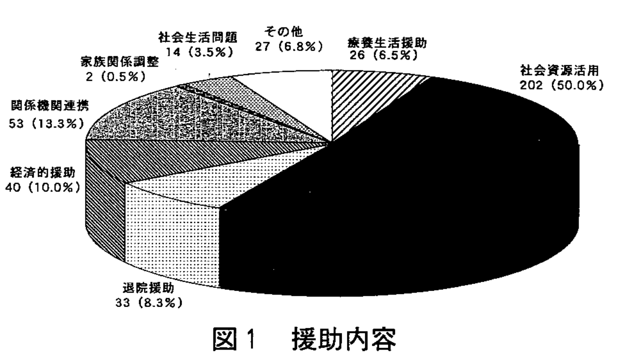


図１　援助内容

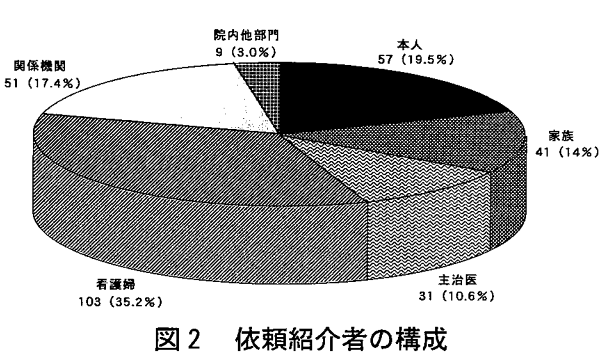


図２　依頼紹介者の構成

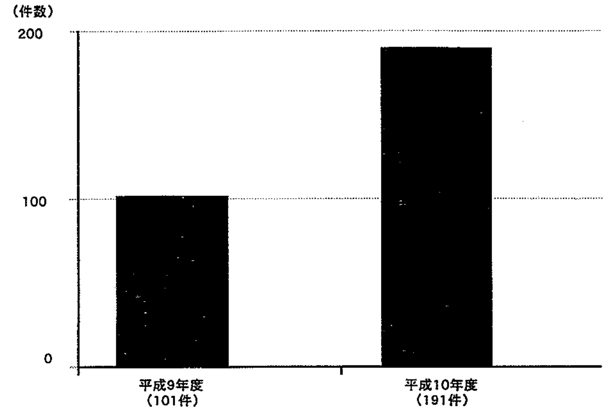


**図3　新規取扱件数の推移**

事課窓口、病歴業務の担当者として配置されており、この間は他職種の業務内容把握と人間関係の形成、社会資源の情報収集に努めた時期であった。2年目は各職員へのMSW業務への理解と周知へ向けた働きかけと、外部関係機関とのとのネットワーク作りを念頭に業務を行なってきた。

（4）ケースを振り返って

院内外からの様々な協力の中、業務を行なってきたが、その中で援助方法にもっとも困難を感じ、印象に残っているのは親族不在の患者の死というケースであった。

ケースの概要

【患　者】　S.K氏　男性　59歳

【病　名】　肺癌、転移性脊椎腫瘍

【病　歴】　平成10年9月腰痛にて近医受診。腫瘍による病的骨折と診断され、同月、当院整形外科転入院となる。その後呼吸器科へ転科し化学療法を行うが、同年12月24日死亡。

【ADL】　腰椎骨折による痛みにて仰臥位のみ。

【職　業】　警備員

【経　済】　傷病手当金のみ。民間金融業者に借金あり。

【家　族】　20年ほど前に離婚。息子、兄弟同胞健在であるが往来なし。

【内　容】

病棟より医療費支払い困難との依頼を受け、その軽減を目的にケースを開始した。身障者手帳の取得にて（1級）重度医療が適応となり医療費の軽減ははかられ、さらに健康保険の傷病手当金の申請を行い、当座をしのぐ金銭は確保された。しかし、会社の在籍問題、死亡時の身元引き受け者の確認、現金の管理、死亡後には生命保険の受け取り、法定相続人の捜索などさまざまな問題が浮上した。

【ケースの考察】

本ケースはMSW入職2年目に経験したものである。ここでは単なる社会資源の提供のみではなく、家族関係の調整や外部関係機関との交渉、患者の心理状態の把握、死亡後の親族との関りなどが期待されたものと考えられる。病棟スタッフは各職種と連携し多方面の問題に関係する可能性がある職種としてのMSW業務に理解があり、その熱意に後押しされる形で事例展開することができたが、ニーズに的確に対応できていたかは疑問である。

## 考　察

現在徐々にではあるが院内におけるMSW業務は確立しつつあり、今年度（平成11年度）の8月現在までの新規取扱患者数は101件、また今年度4月から8月までの累計取扱件数は494件となっている。しかし一人で悩み続け退院後に医療相談を知り、もっと早く相談したかったと訪れてくる患者が少なからず存在する。

今後は今年度から作成した業務日報を活用し、また院内の専門職種の方々と共同して、さらなる業務確立をめざす一方、患者用各種社会資源リーフレットの作成、患者が気軽に相談できるルートの確保、質の高い援助を行なうための定期的なスーパービジョンと、院内外学習会等へ積極的に参加し、さらに地域に根差ざした細かなネットワーク作りへ向け、研鑽に努めていきたいと考えている。

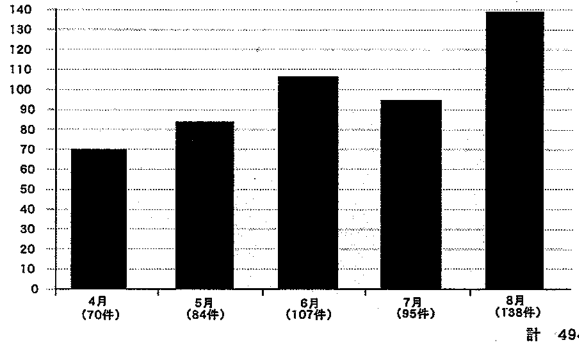


**図4　平成11年度累計取扱ケース数**

# Establishing better work practices
# —The challenge of the new Medical Social Worker, (MSW)—

Shihori KASAI, Toshie KANAZAWA, Reiko NAKAGOMI, Hiroaki ENDOU
Katuyuki NODA, Shin AOKI, Chihiro SEKIYA, Kunio SUGIYAMA, Yoshinobu HATA
Hospital affairs Section, Sapporo Social Insurance General Hospital

People expect MSW to perform many specialist tasks, such as psychological and social help for patients and their families, to have connections to other specialist medical feilds and to create service networks in communities. I would like to submit a report of my experience over the last two years and comment on my thoughts for the future in regards to the role of an MSW.